



インスピレーションになろう

週報

2018~2019年度 RI 会長 バリー・ラシン

(バハマ、イーストナッソーロータリークラブ所属)

RI 第 2730 地区ガバナー 川原篤雄 (鹿児島サザンウインド RC)
鹿児島県市内ガバナー補佐 B グループ上田耕平 (鹿児島北 RC)
A グループ内倉厚弘 (鹿児島城西 RC)

鹿児島東南ロータリークラブ

会長 中馬 敏之 幹事 渡海谷 宗宜 副会長 野井倉 洋豪

(例会日、場所) 毎週火曜日、鹿児島市与次郎一丁目8-10

サンロイヤルホテル Tel 099-253-2020

(事務局) 〒890-0062 鹿児島市与次郎一丁目8-10

サンロイヤルホテル4F Tel 259-6855 Fax 259-1622

E-Mail info@tounanrc.jp ホームページ <http://www.tounanrc.jp/>

第 2374 回 No.7

平成 30 年 8 月 28 日 (火)

本日のプログラム

上田ガバナー補佐訪問

第 2373 回例会報告

会長挨拶

会長 中馬敏之



毎年南日本新聞にロータリークラブの新会長が掲載されますが、今年は先週 8 月 15 日に掲載され、私も載っていました。

掲載にあたり取材は 1 ヶ月ほど前に受けたのですが、記者からはいろいろ質問を受け、今年度は当クラブの 50 周年とローターアクトクラブの 40 周年記念式典がある旨を伝えました。また、個人的なところで趣味を聞かれましたので野球などスポーツ観戦と答えました。

スポーツ観戦の中でも野球観戦が好きで、概ね毎年 1 回はヤフードームにソフトバンクの試合を観に行くのですが、今年はお盆休みを利用して妻と 2 人で野球観戦

に行ってきました。福岡には新幹線で行くこともありますが、今年は車でのおんびり行きました。それでも 4 時間弱ほどで福岡に着き、新幹線含め移動が本当に便利になったと思います。

試合は、ソフトバンク対日本ハムで、ソフトバンクの選手のホームランで先制したのですが、日本ハムの選手のホームランで追いつき、同点で 9 回を迎え、福岡出身の日本ハムの選手が 2 点タイムリーを放って日本ハムが勝ちました。

観戦して印象に残ったことがあったのでお伝えしますと、ヤフードームということで観客のほとんどはソフトバンクのファンです。ただ、私の斜め前に座っていた女性は日本ハムのファンで、熱心に応援していました。日本ハムが攻撃のときはソフトバンクファンは静かにしますので、一人だけ大きな声で応援する女性の声が周囲に響き渡り、非常に浮いていましたが、臆することなく大きな声で応援する姿に度胸があるなど感心しました。

9 回の 2 点タイムリーのときもソフトバンクファンがため息をつく中、一人大喜びでした。近くに座っていた

こともあってその女性の応援の声が耳から離れず、今でも真似できるほど記憶に残っています。

試合やファンの姿を見て思いましたが、地元でプロの試合を観戦できるというのは素晴らしいことです。鹿児島にもサッカーのユナイテッドFCやバスケのレブナイズがありますので、もっともっと盛り上がることを期待しています。

ゲスト・ビジター紹介

米山奨学生 セムハルさん

→8月分の奨学金を授与いたしました。9月11日例会にセムハルさんの卓話を予定しています。



会務報告

- 8月28日(火)は12時～理事会が開催されます。理事の皆様はよろしくお願ひいたします。
- 9月18日(火)は親月夜間家族例会です。メール及びFAXにてご案内をお送りしておりますが、本日の例会から回覧いたします。たくさんのご参加よろしくお願ひいたします。
- 10月13日(土)～14日(日)に開催される地区大会出欠の回覧をスタートいたしました。

出席報告

会員数	24名	前々回出席者	14名
出席免除	0名	メイクアップ	2名
出席会員	15名	出席訂正率	69.5%
出席率	62.5%		

スマイル報告 今回はございません。

本日計0円 累計123,000円

RAスマイル報告 今回はございません。

本日計0円 累計200,000円

本日のプログラム

会員卓話 田中啓悟会員(株式会社瑛建)



私は昭和50年生の3人兄弟の2番目で薩摩川内市出身です。

2番目といっても一卵性の双子でそっくりな兄がおります。小学校は薩摩川内市の育英小学校で中学は川内北中学校で高校はれいめい高校出身でございます。小学校から親の影響もあり柔道を1年生からはじめて、並行して小学校のソフトボール部にも所属しておりました。双子の思春期は不思議なもので、兄と会うのが嫌なくらい中学時代は家でも話をしない兄弟でした。今思うと、いつも比べられ、勉強や体格や部活の成績等すべて兄が私の上をいくのが、自分の中では、不満で、かなり親に迷惑かけていたのだろうと思うくらい仲が悪い兄弟でした。中学時代兄はそのまま柔道部で私は兄嫌いでしたので、野球部にすすみしました。中学3年生の夏休みに高校進学をどうしようかと悩んでいたころ小学校のころから柔道の成績が優秀だった兄は地元のれいめい高校から特待生の話がきていました。なぜか親が私に夏休みから川内市の武道館で柔道の練習に行きなさいといわれ、意味が分からないまま練習に通っていました。夏休みが終わるころ、高校の監督がうちに来て、私も特待生で来ないかとさそわれ、ビックリしたのを今でも、鮮明に覚えております。川内市は武道館が一つしかなく、小学時代から川内実業高校生と同じ武道館で練習していたこともあり、監督は昔から私たち兄弟の指導をして下さっていたこともあり、お声をかけて頂いたのだと思います。双子だから少し練習すれば兄貴に追いつか頑張らなさいとお声をかけて頂き、れいめい高校に柔道の特待生として、入学決意いたしました。高校時代は、兄は個人戦で県2位の成績を収めたのですが、私は兄と同じ階級でしたので、いつも準決勝前でまけてしまい、夢であった兄弟決勝戦かなわずじまいで、高校生活はおわりました。高校卒業後は、東京の板橋の建設会社に就職して、建設

現場で、現場監督の見習いをしておりましたが、2年間くらいって当時、仲の良い友達二人が、鹿児島に帰ると相談があり、私も若かったせいか彼の言葉に影響され、鹿児島に帰ってきました。帰ってきてからは、地場の工務店にて、木造住宅の設計及び現場管理をしておりました。田舎の会社でしたので、今では貴重なきやくろ造りも経験させてもらって、在来工法はもちろんの事ログハウスやツーバイフォーもさせてもらって9年間がたち、27歳の頃結婚をしようと2002年に結納をすまして、2003年5月に式場もおさえて、招待状も準備して発送も完了したころ、会社が突然2003年の3月(結婚式の前2か月前)に倒産してしまい、路頭に迷ったのですが、当時鹿児島市の南国交通に妻が勤務していたというもあり、鹿児島市内に出てくる決心して、東日本ハウスという全国メーカーに就職をきめて、なんとか結婚式は無職で迎えることなく無事結婚式を挙げる事ができました。



その後、東日本ハウスの先輩が独立をされてその後1年くらい後でお誘い頂き、先輩の会社で共に会社を盛り上げようと奮起しておりました。

その後6年が過ぎ 順調に成績も伸びて自宅も建てて順調に生活していた矢先に妻が3人目の子どもを妊娠中に女性系の癌になってしまい、手術を受け、一命は取り留めたのですが、子供は産んであげられなく、夫婦で落ち込んでいた日々が半年ほど過ぎ、私も今ではデブですが、当時は15kgほどやせてしまい、何もかもやりがい無くしていたのですが、突然、妻が入院生活で感じと事があつたらしく、33歳で看護学校に行きたいと言い出して、子供のためにも頑張りたいと元気を取り戻しつつありました。その後、勉強をしはじめて、中山の看護学校に無事入学することができ、頑張っておりました、その姿を、毎日みており私自身もこのまま会社の地位をあげるのも、一つの方法だとは思いますが、昔からの夢でもあった 独立という方向性を考えるようになり、当時37歳でしたが、40歳までには独立という計画をたてて、

奮起し、38歳で独立致しました。

当時は、成績が伴わなければ、家も売却するつもりでおりましたが、あれよあれよという間に棟数もあがってきて、徐々にですが、会社の方も成長させて頂いています。

今では、妻も看護師として働き、たまには喧嘩もしますが、家族4人で楽しく生活しております。

かくせい 郭世栄君からの手紙

米山奨学生だった郭世栄君(宮城県仙台市在住)が博士(工学)を取得され、米山奨学会より送られてきた記念品をお送りしましたところお手紙が届きましたので原文そのまま以下記載いたします。



「拝啓 皆様、盛夏の候、猛暑が続いてうだるような毎日ですが、いかがお過ごしでしょうか？」

先日、家にロータリーの記念腕時計と鹿児島の懐かしいお菓子が届き、心から温まるものを感じさせていただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。毎日出勤するの段々と慣れてきて楽しんで会社生活を送っているので、皆様にもご安心になっていただければと思います。困った時は野井倉先生相談に乗っていただいたりしますのでこれからも縁を切らずにずっと付き合わせて頂くようよろしくお願いいたします。

大変暑い夏ですが、お変わりなくご壮健で過ごしていらっしゃいますようお祈りしております！」

国際ロータリーホームページより

「ロータリアンは、人びとの笑顔を取り戻すために、多くの手術を実施してきました」

2012年、リカルド・ロマンさんがデパートで買い物をしていたとき、20代前半らしき女性が近づいてきました。「見覚えはない」とロマンさんは感じたそうですが、それもそのはず。その女性と以前に会ったのは10年以上も前。そして何よりも、彼女の笑顔に劇的な変化があったからです。



レニヤーカー・ロータリークラブ(チリ)の会員であるロマンさんは、口唇口蓋裂やほかの先天性欠損症がある子どもを支援するプログラムで全国コーディネーターを担っています。この女性は、支援を受けた子どもの一人でした。

『「これが私のロータリアンスマイル」、と彼女は言ったんです』

そう振り返る、ロマンさんの声は震えていました。

このプロジェクトは 1993 年、サンフランシスコのロータリアンが、チリで再建手術を行う医療団を派遣したことから始まりました。これこそ現在、26 カ国にチームを派遣するまでに発展したプログラム、ロータープラスト(Rotaplast)の始まりです。

2004 年からチリのロータリアンがプログラムを主導するようになって以来、数年間で同国の多くの医師が参加するようになり、癌患者の乳房再建を行えるほどプログラムは拡大しました。

「スペイン語を話す人と英語を話す人が一緒に活動して結果を出していることがロータリーの素晴らしさ」と、米国オハイオ州の整形外科医、ジェームズ・リーマン(フェアローン・ロータリークラブ会員)は話します。

今年 2 月、リーマンさんは、米国の形成外科医、麻酔科医、看護婦のチームと共に、チリ北部の国境から約 130km 南の港町イクイケを訪れました。チームの食費・宿泊施設の支払い、国内交通費は、近くの鉱物産業からの資金援助や地元会員が賄いました。飛行機代は医師たちが自己負担したほか、オハイオ州の非営利団体がスタッフ渡航費を負担しました。

チリでは年に約 600 人の口唇口蓋裂の子どもが生まれています。政府が 8 つの治療センターを設立しても、その順番待ちリストは長く、何年も待たなくてはなりません。

そのため、チームが活動する病院では、土曜の朝早くから 250 人を超える患者の行列ができました。チリ全国から患

者が集り、中には 2000km 以上も旅してきた家族もいました。



手術室は 4 つあり、それぞれ口唇口蓋裂、耳の再建、乳房再建、その他の用途に使用します。チームは多忙です。患者のニーズと複雑さに基づいて決定が行われ、今回の滞在中に患者 82 名に手術をしました。多くの患者は完全な再建に複数回の手術を要し、中には完了まで数年間、毎年手術を受けなければならない人もいます。

最後の手術が終わっても、患者とロータリーとの関係は続きます。

冒頭で元患者と再会したロマンさんは、その後、その女性をロータリー行事に招待しました。300 人の会員を前に、彼女は自分の人生を変えた手術について講演。彼女の輝くロータリアンスマイルに、多くが涙を流しました。

★記帳メーキャップ受付ございません。			
月/日	クラブ	例会場	プログラム
9/4 50 周年準備	9/11 米山奨学生セムハルさん 卓話	9/18 観月夜間家族例会 18:30～サンロイヤルホテル	
8/29 (水)	鹿児島南	サンロイヤル	外部卓話
	鹿児島西	山形	会員卓話
	鹿児島西南	ゆうづき	上田ガバナー補佐訪問
8/30 (木)	鹿児島東	サンデイズイン	外部卓話
	鹿児島北	インプラントビル	外部卓話
	鹿児島サザン カイト	鹿児島東急 REI	会員卓話
8/31 (金)	鹿児島	山形屋	上田ガバナー補佐訪問
9/3 (月)	鹿児島中央	山形屋	情報集会報告
9/4 (火)	鹿児島 城西	鹿児島 東急 REI	クラブフォーラム